

社会科（地理的分野）学習構想案

期 日 令和5年1月1日（水）第5校時

場 所 山鹿中学校体育館

学 級 2年2組 39人

指導者 山鹿市立山鹿中学校 教諭 五十嵐 健

1 単元の構想

単元名	第3章 4節「中部地方」（東京書籍P.221～243）		
単元の目標	<p>(1) 中部地方について、その地域的特色や地域の課題を理解することができる。</p> <p>(2) 中部地方について、産業の成立条件を地域の広がりや地域内の結びつき、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連づけて多面的・多角的に考察し、表現することができる。</p> <p>(3) 中部地方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとする態度を養う。</p>		
単元終了時に期待する生徒の姿			
中部地方で盛んな産業の地理的特色と、産業が抱える課題を学び、社会的事象や課題とを関連づけていく中で問いを見つけ、よりよい社会の実現に向けて社会に向き合うことのできる生徒			
指導計画と評価計画（8時間取扱い 本時7／8）			
過程	時間	主発問及び 主に働かせたい見方・考え方	身につけさせたい力 (知・技 / 思・判・表 / 態)
課題把握	1	【位置や分布】 【地域】 ・中部地方は、どのように3つの地域に分けることができるだろうか	・3つに分かれる地域の地形や気候、特色ある産業、東海地方に集中する人口などの特色を理解し、知識を身につけている。(知・技) ・中部地方の特色から探求課題を見出し、主体的に追究しようとしている。(態)
	単元を貫く課題：中部地方では、なぜ各地に特色ある産業が発達し続けているのだろうか。		
課題追究	1	【地域】 【自然環境】 ・北陸の地場産業はどのような工夫をしているのだろうか	・北陸の伝統産業や地場産業の発展に見られる工夫を付加価値の向上や人材確保と関連づけて考察し表現している。(思・判・表)
	1	【地域】 【変化】 ・中央高地の産業は、どのように変化してきたのだろうか	・中央高地の産業に見られる変化を、自然の特色や交通の発達、市場の変化などを示す資料と関連づけて読み取っている。(知・技)
	1	【位置や分布】 【空間的相互依存作用】 ・中京工業地帯はどのようにして輸送機械工業が盛んになったのだろうか	・東海の工業の特色と課題について、交通網や貿易などの社会的条件と関連づけて多面的・多角的に捉えている。(思・判・表)
	1	【地域】 【空間的相互依存作用】 ・どうしてピアノは静岡でしか作っていないのだろうか	・静岡県のピアノ産業に見られる特色についてその地理的要因を予測し、主体的に追究しようとしている。(態)
	1	【空間的相互依存作用】 【変化】 ・静岡県のピアノ産業は今後も生産を維持し続けていけるのだろうか	・ピアノ産業が抱える課題や現状について知り、産業を継続させるための工夫について北陸、中央高地、東海の工業で学習したことを生かしながら考察している。(思・判・表)
課題解決	1 (本時)	【空間的相互依存作用】 ・ピアノ産業がこれからの時代に対応するために、どのようなことに力を入れていくべきだろうか	・ピアノ産業のこれからのについて視点を持って話し合い、現代社会の特色や課題と関連づけて考察し、まとめている。(思・判・表)
	1	【地域】 【空間的相互依存作用】 ・中部地方では、なぜ各地に特色ある産業が発達し続けているのだろうか	・東海地方に見られる特色ある産業についてその地理的要因を主体的に追究し、これからの学習に生かそうとしている。(態)

2 本実践のねらいと生徒の実態

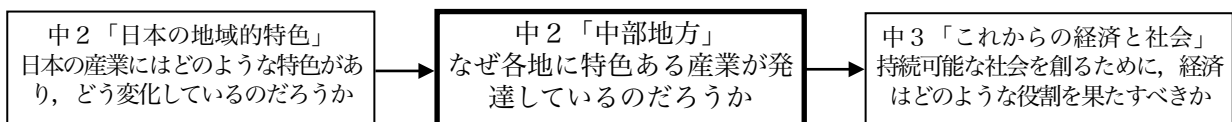
本実践（単元）のねらい

本単元は、学習指導要領の地理的分野における「C日本の様々な地域」の「(3)日本の諸地域」にあたる。東海・中央高地・北陸から構成される中部地方は広範囲にわたり、それぞれの地域の自然環境や産業のあり方は大きく異なる。注目すべきは、それぞれの地域で盛んな産業が日本有数の生産額を誇り、国内外で大きなシェアを占めている点である。

東海地方の工業に着目すると、東海工業地域の中心である静岡県は、工業生産額で愛知県、神奈川県に次ぐ全国3位の規模を誇る。さらに静岡県浜松市は、日本の3大楽器メーカーが全て集まる都市である。その中でもピアノの製造では世界シェア1・2位の企業が立地しており、国内での生産は全て静岡県で行われている。一方で、世界の楽器産業を牽引するこれらの企業だが、国内では楽器産業は熟成産業となり売り上げは停滞しており、中国や新興国への進出を展開し始めている。国際化や技術革新への進展は、他地域や他の産業にも見られる課題であり、これらの課題にどのように向き合っていくかを考えることは、持続可能な産業のあり方を考えることにもつながる学習であると言える。

以上のことから、中部地方の地理的事象について、産業を中核にして自然条件・環境条件や人々の営みや工夫と結び付けて追究させることは、様々な視点や立場と関連付けて多面的・多角的に考察できる生徒を育成する上でも意義深いと考える。

本単元における系統



生徒の実態（単元の目標につながる学びの実態）

■本単元を学習する以前の内容理解

（単位：37人）

調査内容	よく	まあまあ	あまり	ない
日本の主要な工業地帯・工業地域を知っている。	12	8	11	6
日本の産業の特色や課題について資料をもとに答える。	23	8	3	3

■本単元の学習に関する意識の状況

（単位：36人）

調査内容	
中部地方で生産されているものとして、知っているものは何か？ （自由記述）	【北陸に関するもの】 米づくりが盛ん（12）・漁業が盛ん（8）・佐渡金山（2） 【中央高地に関するもの】 果実（3）・野菜（レタス・キャベツ）を育てている（2）・林業 【東海に関するもの】 漁業が盛ん（7）・自動車産業（5）・工業地帯 【無回答】（8）
日本を取り巻く環境、現状、課題について関心のあるものは何か？	少子高齢化（21）、産業の空洞化（3） エネルギー問題（8）、環境問題（4）

■考察

太平洋ベルトや日本の主要な工業地帯・工業地域に関する知識・理解については、理解度の二極化が見られる。この実態は、他の単元や歴史的分野についても同様である。一方で、資料を活用した課題や調べたことをもとに意見を出し合う学習には、意欲的に取り組むことができる生徒が多い。

中部地方の産業に対する事前の知識は北陸地方の稲作と中京工業地帯の自動車産業に偏りが見られる。一部の生徒は林業や漁業など自然環境と産業との関わりについて関心を持っていることがうかがえるが、全体的に中部地方の産業に対する関心が高いとは言えない実態がある。

本単元を通して、産業への関心を高めるとともに、自分の考えを説明する時には根拠や正しい用語等を用いることができるような指導が必要である。

3 指導に当たっての留意点

- 効果的な資料の提示やまとめと振り返りの時間の確保により、中部地方の地理的特色について基本的な学習内容を確実に理解できるようにする。
- ジグソー法を援用して班員の構成を工夫したり探究の視点を明確にしたりすることで、主体的かつ協働的に学習に取り組めるようにする。
- 資料や調べたことはロイロノートなどの授業支援アプリを活用して整理することができるようにする。

4 本時の学習

(1) 目標 ピアノ産業が今後も産業を持続させていくために重視すべきことを考える活動を通して、これからの産業のあり方について自分なりに考えることができる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される生徒の発言 ※生み出したい問い)	指導上の留意事項
導入	5分	1 前時までの確認を行う。 ◇国外に目を向けたらいいんと思うよ。 ※どう対応していくべきかは、お互いに関連しているんじゃないかな？	○前時までにエキスパート学習班でまとめた資料やシートを確認させる。 ○本時の流れを確認し、学習の見通しを持たせる。
		【学習課題】 ピアノ産業がこれからの時代に対応するために、どのようなことに力を入れていくべきだろうか。	
展開	15分	2 学習課題に対する個人の考えを班で共有し、班でまとめて図化する。 ◇ピアノをつくる職人を育てなきゃいけない。 ※ピアノを習う人を増やすことはできないかな。 ※原料を安定して手に入れるためには、どうしたらいいんだろうか？ ◇環境に配慮した取り組みをなきゃいけない。 ※どの資料が活用できるだろうか？	○エキスパート学習班で調べたり考えたりしたことをジグソー班で出し合わせる。 ○班員の考えに対する疑問や質問を出させ、生徒の問いを引き出す。 ○ホワイトボードや授業支援アプリ等を活用し、思考の様子が見えるようにする。 ○「ピアノの出荷台数」「ピアノの輸出先」「少子高齢化を示すグラフ」「『楽器のまち浜松市』の写真」などこれまでに配布・収集した資料を使い、根拠を示させる。
	20分	3 各班から出された考えを全体で共有し、よりよい対応策を考える。 ◇ピアノの生産台数の減少は、電子ピアノやピアノアプリの普及と関連している。ピアノの良さを知ってもらおう取組がいいんじゃないかな。 ◇国内での生産台数は減ってきているけど、外国ではこれから必要となる国がありそうだ。 ※自分たちの班は○○が大切だと思ったけど、それについてはどう思いますか？	○全部の班の考えが見えるように黒板等に示した上で、発表させる。 ○発表に対する生徒の反応を引き出し、生徒間の対話を生み出す。 ○どのような視点を重視しているか、視点同士はどのように関連しているか、考えの異なる班に発言させる。
終末	10分	4 本時を通して学んだことを振り返り、自分なりの考えをまとめる。 ◇リサイクルや新しい機能をピアノにつけると、そこから環境や社会につながるものがあるから、まずできることから取り組むことが大切だと思う。 ※他の産業ではどのように課題に対処しているのだろうか？	○東海地方に本社を置く企業のHPで実際の企業の取組を見せる。 ○自分の言葉でまとめることができるよう、支援を行う。 ○生徒の発言から産業の持続可能性について引き出し、次の学習へつなげる。

(3) 本時の評価

評価の観点	評価基準
思考・判断・表現	A：ピアノ産業の今後を考察し、話し合うことを通して、持続的な産業のあり方について自分の考えを複数の視点と比較した上で持つことができる。 B：ピアノ産業の今後を考察し、話し合うことを通して、持続的な産業のあり方について考えを持つことができる。